

環境活動レポート

(対象期間:平成27年10月～平成28年9月)



KOWA 興和産業株式会社

作成年月日:平成29年2月1日

第2号版

目次

I. 組織の概要	1頁
II. 環境方針	2頁
III. 実施体制	3頁
IV. 環境目標	4頁
V. 環境活動計画と評価及び次年度の取組内容	5頁
VI. 環境目標の実績	6頁
VII. 環境関連法規の遵守状況	7頁
VIII. 経営者による全体評価と見直し結果	8頁
IX. 当社の取り組み	9頁

I 組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

興和産業株式会社
代表取締役 磯西 聡

2. 所在地

名称	所在地	延床面積(m ²)	備考
本社	静岡県静岡市葵区日出町5-1 9F	134.16	人員4名
安倍川工場	静岡県静岡市葵区富厚里1810-1	8,509.58	人員61名

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 藤本 雅史 連絡先 TEL 054-270-1190
環境管理事務局 川島 隆史（連絡先担当者） E-mail kawashima@kowasangyo.co.jp

4. 事業活動

内装建材製品及びインテリア商品の製造及び販売

5. 事業規模（平成28年10月1日現在）

売上高 ： 10億7,067万円（平成27年10月1日から平成28年9月30日）
従業員数 ： 全社65名（内訳 本社 4名 安倍川工場 61名）

6. 事業年度

10月1日～翌年9月30日

7. 認証・登録の対象範囲

活動： 全事業活動
対象組織：本社及び安倍川工場
ただし、本社に関しては現状は環境負荷が少ない。（従業員4人）
次回より、対象範囲に加える予定

Ⅱ 環境方針

[環境理念]

興和産業株式会社は、社会の真の豊かさを願って
当社技術を活かした内装建材を開発・生産し、社会に供給しています。

しかし、事業活動や製品が、意図せずに環境に影響を与え、
結果として環境に何らかの負の影響を与えていることは否めません。

この影響を真摯に受け止め、当社の事業活動が環境と調和した経済発展に
寄与するよう社内の全組織を挙げて環境負荷の低減に取り組みます。

[基本方針]

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、継続的な環境経営を展開します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量等の削減に努めます
 - 1) 電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努めます
 - 2) 3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動の展開による廃棄物の削減に努めます
 - 3) 化学物質の適正使用に努めます
2. 環境関連法規制等の遵守
環境関連法規制を遵守します
3. 環境に配慮した製造活動
 - 1) 事務用品や原材料等のグリーン購入に努めます
 - 2) 環境に配慮した製品作りを推進します
4. 環境コミュニケーションの実施
 - 1) 社外に環境活動レポートを公開し、利害関係者のみならず社会とのより良いコミュニケーションを図って行きます
 - 2) 社内においては、全従業員に環境方針を周知し、全社員参画による取組を目指します

制定年月日 平成28年12月 1日

興和産業株式会社

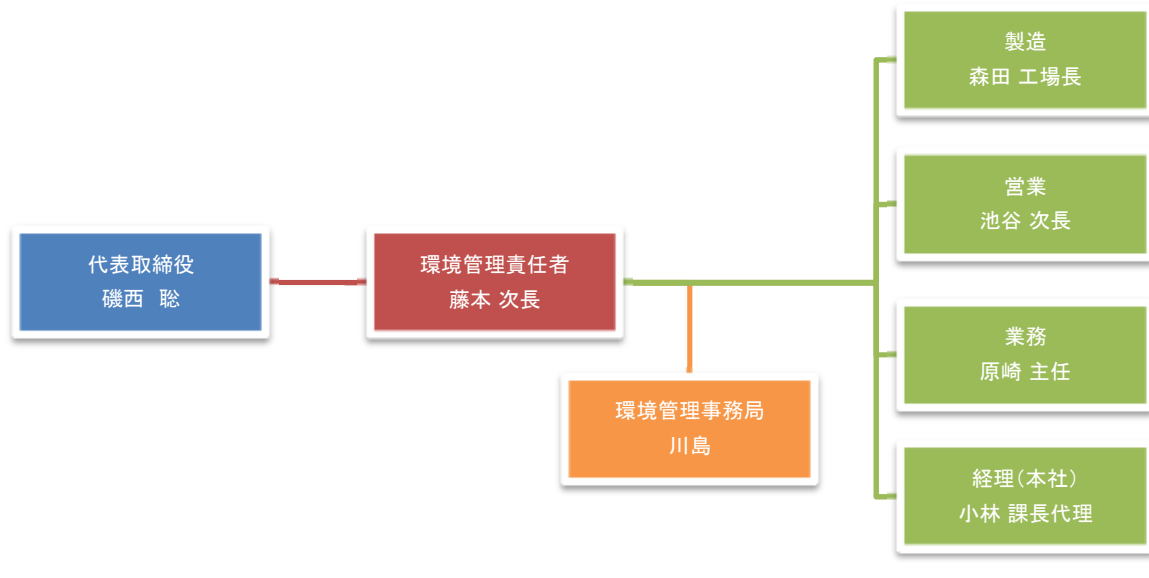
代表取締役

磯西 聡

Ⅲ 実施体制

<体制図>

平成28年12月1日 現在



<関係者の権限と役割>

社長

- ①環境経営全般に関する責任と権限
- ②環境経営に必要な資源の準備
- ③環境経営システム全体の評価と見直し
- ④環境管理責任者の任命

環境管理責任者

- ①環境経営システム全般の運用・管理
- ②環境目標・環境活動計画の進行管理
- ③取組状況の社長への報告
- ④法規制の遵守状況チェック
- ⑤環境活動レポートの管理

環境管理事務局

- ①環境負荷データ等の集計
- ②環境目標及び環境活動計画書の作成
- ③「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施
- ④環境管理責任者へ取組状況の報告
- ⑤環境活動レポートの作成
- ⑥文書・記録の管理

各部門長

- ①部門の環境活動計画の実施
- ②部門の問題点把握と是正対策の実施
- ③部門取組状況の事務局への報告
- ④部門の従業員教育

その他の従業員

- ①自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

IV 環境目標

短期・中長期環境目標

環境目標は、平成26年度を基準年とした基準年比とする。

各年度期間(10月1日～翌年9月30日)

上段:絶対量/下段:原単位置

項目	単位	H26年度	H27年度 目標	H28年度 目標	H29年度 目標	
		製品1個当たり				
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	437,188	-0.20%	-0.40%	-0.60%	
		0.6582	0.6568	0.6555	0.6542	
	電力	kWh	793,853	-0.20%	-0.40%	-0.60%
			1.1951	1.1930	1.1900	1.1880
	ガソリン	L	7,716	-0.20%	-0.40%	-0.60%
			0.0116	0.0116	0.0116	0.0115
	軽油	L	4,583	-0.20%	-0.40%	-0.60%
			0.00690	0.00689	0.00687	0.00686
	灯油	L	—	適正な使用		
	LPガス	kg	—	適正な使用		
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	292.93	-0.20%	-0.40%	-0.60%
		0.000441	0.000440	0.000439	0.000438	
	一般廃棄物	kg	—	適正な使用		
水使用量	—	—	適正な使用			
グリーン購入（事務用品）	%	—	現状把握	購入品の1%		
化学物質使用量	—	—	適正な管理・使用			
環境に配慮した製品づくり	件	—	目標の設定	1件		

(注)

- 1) 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、中部電力(H23年度)の「0.513kg-CO₂/kWh」を使用した。
- 2) 灯油、LPガスは使用しているが微量の為、数値目標の設定は困難である。今後検討する予定。
- 3) 「一般廃棄物排出量」及び「化学物質使用量」の数値目標の設定は困難である。今後検討する予定。
- 4) 「水使用量」は地下水利用のみで、上水の使用無しの為、目標設定は困難である。今後検討する予定。
- 5) 「グリーン購入」は過去実績がないため、平成27年度に現状把握を行い、28年度から数値目標を設定する。
- 6) 「環境に配慮した製品づくり」は、平成28年度までに目標の設定を行う。
- 7) 各項目の下段は生産数量で割った数値(原単位評価)。 H26年度生産数: 664,258

V 環境活動計画と評価及び次年度の取組内容

(取組期間:平成27年10月～平成28年9月)

環境活動項目(平成27年度)			担当部門	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容
二酸化炭素の削減	エコ運転管理等	A.不必要なアイドリングの禁止	営業	○	エコ運転の意識を持って、行動をとれている。今後も引き続き、高い意識で、活動していきたい。	継続
		B.不要な荷物を積まない(1回/月チェックする)		○		
		C.急発進・急加速の禁止		○		
		D.低冷房運転の励行		○		
	事務所	A.エアコンの設定温度を夏季25℃、冬季22℃に設定	業務	○	エアコンには目標を張り、設定温度を定期的に確認し、古く消費電力の高いエアコンは省エネタイプに切り替え(食堂、会議室)	継続
		B.クールビズ、ウォームビズの実施		○		
		C.空調フィルターの定期清掃(1回/年)		○		
		D.未使用設備の電源OFF(照明、OA機器)		○		
	工場	A.製造工程の見直し	製造	△	製造工程、5Sは現在見直し中、現在は工場内レイアウトの最中で、不要物の廃棄等を行い、まずはスペースの確認中	継続
		B.クールビズ、ウォームビズの実施		○		
		C.コンプレッサーのエア漏れチェック		○		
		D.未使用設備の電源OFF(照明、製造設備)		○		
		D.5S活動の実施		△		
	品事務削減	コピー用紙の裏面再利用	業務	○	以前から徹底している為、問題なし、引き続き、継続していく	継続
	リサ推イ進	木くずの分別及びリサイクル	製造	○	木くずに限らないが廃棄物の分別を徹底し、再利用してくれる業者に木くずを引き取ってもらっている	継続
廃棄物の分別	廃棄物の分別	製造	△	分別が時折できていなく、別コンテナに混入の事がある為、廃棄マニュアルを作成し、朝礼等で徹底を呼びかける。	継続	
化学物質	使用化学物質のMSDS入手	製造	△	全てMSDSを入手しきれていない為、今後徹底していく	継続	
	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理		○			
IT活用	文書の電子化し、社内書類のペーパーレス化	業務	△	来季より、グループウェアを導入し、更なる電子化に取り組む	継続	
備考	1) 取組期間の評価は平成27年10月～平成28年9月の1年間の実績評価である。 2) 評価判定は○・△・×の3段階で行なった。					

VI 環境目標の実績

前年同期実績をベースに、運用期間(平成27年10月～平成28年9月)の実績・評価を以下に示す。

上段:絶対量/下段:原単位量

項目	単位	H26年度 実績	H27年度 目標	H27年度 実績	対前年 比率%	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	437,188	-0.20%	419,113	-19.4%	○	
		0.6582	0.6568	0.5303			
	電力	kWh	793,853	-0.20%	764,796	-19.0%	○
			1.1951	1.1927	0.9677		
	ガソリン	L	7,716.1	-0.20%	7,129.2	-22.3%	○
			0.0116	0.0116	0.0090		
	軽油	L	4,583.0	-0.20%	4,481.1	-17.8%	○
			0.00690	0.00689	0.0057		
灯油	L	—	適正な管理・使用	同左	—	○	
LPガス	kg	—	適正な管理・使用	同左	—	○	
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	292.93	-0.20%	373.13	7.1%	×
		0.000441	0.000440	0.000472			
一般廃棄物	kg	—	適正な管理・使用	同左	—	○	
水使用量	m ³	—	適正な管理・使用	同左	—	○	
グリーン購入(事務用品)	%	—	現状把握	同左	—	○	
化学物質使用量	—	—	適正な管理・使用	同左	—	○	
環境に配慮した製品づくり	件	—	目標の設定	検討中	—	○	

※各項目の下段は生産数量で割った数値(原単位評価)。

H26年10-翌年9月平均生産数: 664,258

H27年10-翌年9月平均生産数: 790,355

※「環境に配慮した製品づくり」に関する環境目標は、今だ検討中の段階である。

Ⅶ 環境関連法規等の遵守状況の確認、及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 平成29年2月1日

評価者 環境管理責任者 藤本 雅史

法律・条例	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	遵守評価
騒音規制法 静岡県生活環境の 保全等に関する条例	特定施設の届出	特定施設の届出	○
		コンプレッサー 5台	
		かんな盤 4台	
		丸のこ盤 10台	
	届出内容の変更有無	変更無し	○
	規制基準値の遵守	騒音の測定(市及び自主検査)	○
浄化槽法	維持管理基準の遵守	維持管理契約の締結	○
		保守点検の実施	○
		定期清掃の実施	○
		法定検査の実施(1回/年)	○
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の3R及び適正処理の推進	廃棄物の分別、行政への協力	○
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物の処理	市条例の収集・処理基準の遵守	○
	産業廃棄物の保管	保管基準の遵守、保管場所の表示	○
	産業廃棄物の委託処理	処理業者と契約契約書の締結	○
	マニフェスト管理	マニフェストの交付、保管	○
		D,E票の期間内返却	○
静岡県産業廃棄物の 適正な処理に関する条例	委託先の現地確認と記録の保存	現地確認記録の保管 (例:木くず【ACフューエル】)	○
家電リサイクル法	指定家電の廃棄時	リサイクル料金の支払(廃棄時)	該当なし
自動車リサイクル法	自動車の廃車時	リサイクル料金の支払(廃車時)	該当なし
リサイクル法	適正廃棄	パソコン、二次電池廃棄時	該当なし
環境基本法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
地球温暖化対策推進法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
省エネ法	省エネの自主努力	LEDの採用	○
消 防 法	火災予防	消火設備の定期点検	○
フロン排出抑制法	エアコン・冷凍(冷蔵)機器の廃棄時	フロン回収業者への引き渡し	該当なし

2. 違反、訴訟等の有無

当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去ありませんでした。

Ⅷ 代表者による全体評価と見直し結果

平成27年10月の運用開始からの取り組みについて、取組初年度の環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況等について評価を行なった。

その結果、二酸化炭素は初回同様の削減率を維持しているが、廃棄物排出量は前期より大幅な増加の結果に驚愕したが、原因を確認したところ工場レイアウト見直しの初期段階として、不要物処理を行ったために出た廃棄物処理の増加であったとのことだったので、今後の改善余地がある結果が得られたと思う。

今回の結果を踏まえて、環境システムの有効性・取組の適切性を再確認し、改善が必要な部門には早期に対応するよう指示をしたところである。

私自身、今後の取り組み精度を上げていくには、社員の意識が何よりも重要だと認識していることから、私も含めた社員同士のコミュニケーション充実を図れるための社内環境づくりに心掛けていきたい。

弊社エコアクションへの取り組みが、地域にとって有意義なものとなるように活動していきたい。

以上

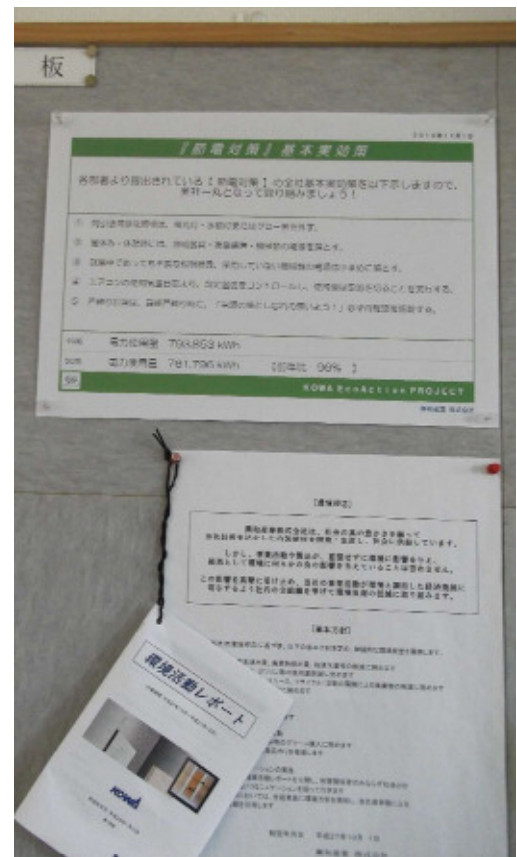
平成29年 2月1日

興和産業株式会社

代表取締役 **磯西 聡**

Ⅸ 当社の取組み

◆社内注意書きで社員の意識づけ◆



◆分別によるリサイクル・廃棄物の適正処理状況◆

